



令和6年度 2月号 No. 11

## 「絵本から飛び出したおやつ」



～あらすじ～

雨の日の日曜日、外で遊ぶ事ができないため、犬のバムが、部屋の掃除を始めました。掃除の後には、おやつのでーナツを作り、その後カエルのケロと一緒に本を見ながらおやつを食べるという話です。

年に一度のおやつ“手作りドーナツ”でした。絵本の場面にあるドーナツを高く積み重ねたタワーを見て、「ドーナツ落ちそう！」や「すごく高い！」など、どのクラスも絵本を見ながら盛り上がっていました。

給食室でも絵本の場面と同じドーナツのタワーを作り、各クラスに持って行くと「うわあ！絵本と一緒にだ！」や「先生、落とさんでね。」と言いながら、ドーナツのタワーに喜んでいました。また、年長児は自分たちで配膳しているため、ドーナツのタワーを崩さないように、慎重に上の方から取っていました。そして、ドーナツを食べると「美味しい！サクサクしている。」など言いながら、嬉しそうに食べたり、ドーナツの穴から覗きこんだり、「にこちゃんマーク！」と言って口元に持ってきたりと楽しく食べていました。



## ～鬼っ子ライスのトッピングに挑戦～

今月の節分・誕生会の日には3歳以上児は、鬼っ子ライスのトッピングに挑戦しました。年長児と年中児は昨年も行っていたため、覚えている子どもも多く「今日の給食で鬼の顔を作るとよね？」と事前に確認する子どももいました。また、年少児は初めての取り組みで戸惑いもありましたが、「自分の好きなように作っていいよ！」と伝えるとアイデアが浮かんだのか集中しながら、鬼の顔をトッピングしていました。トッピングの一つに、鬼の角を表現するためにウインナーがありますが、ウインナーをウサギの耳に見立て「ウサギ鬼を作ったよ！」と教えてくれる子どももいて、個性豊かな鬼たちが勢揃いしました。



## ～魚の解体ショー～

2月19日（水）に魚の解体ショーを行いました。今年度は、歌舞伎界の方から鯖井太郎さんが来られました。一匹の魚から切り身になるまでの工程を見る事が少ない子どもたちは、鯖井太郎さんの魚捌きに釘付けでした。また、年中児の中に“2枚卸し”や“3枚卸し”という言葉を知っている子どももおり、驚きもありました。

3枚卸しになった魚を近くで匂いや触感などを観察してもらいました。子どもたちが観察している間に魚の切り身を塩焼きにすると、焼き立ての魚を美味しく食べていました。

そして、次の日には、アラを使って吸い物を作りいつも食べている給食のすまし汁と飲み比べをしてもらいました。今年度の子どもたちは、アラの出し汁の方が好きと言った子どもが多かったです。

